



私たち一人ひとりの行動が、
未来につながる。

SDGs 未来都市 神奈川県



神奈川県

令和8年2月 27 日

参考資料

未病指標と株式会社ミレニアのあたまの健康チェック®が連携し軽度認知障害の兆候の早期発見を推進！

県では、体と心と脳の状態を見える化できる未病指標(※1)の活用及び、認知症未病改善プロジェクト(※2)を推進し、生活習慣の改善等により、元の状態に戻る可能性があるとする軽度認知障害(MCI)の段階に注目した未病改善の取組を促進しています。

このたび、未病指標と株式会社ミレニアの ME-BYO BRAND 認定商品「認知機能スケールあたまの健康チェック®(以下、「あたまの健康チェック」)」が連携して地域展開することで、軽度認知障害の兆候の見える化等の取組を推進することとしましたので、お知らせします。

○ 連携の概要

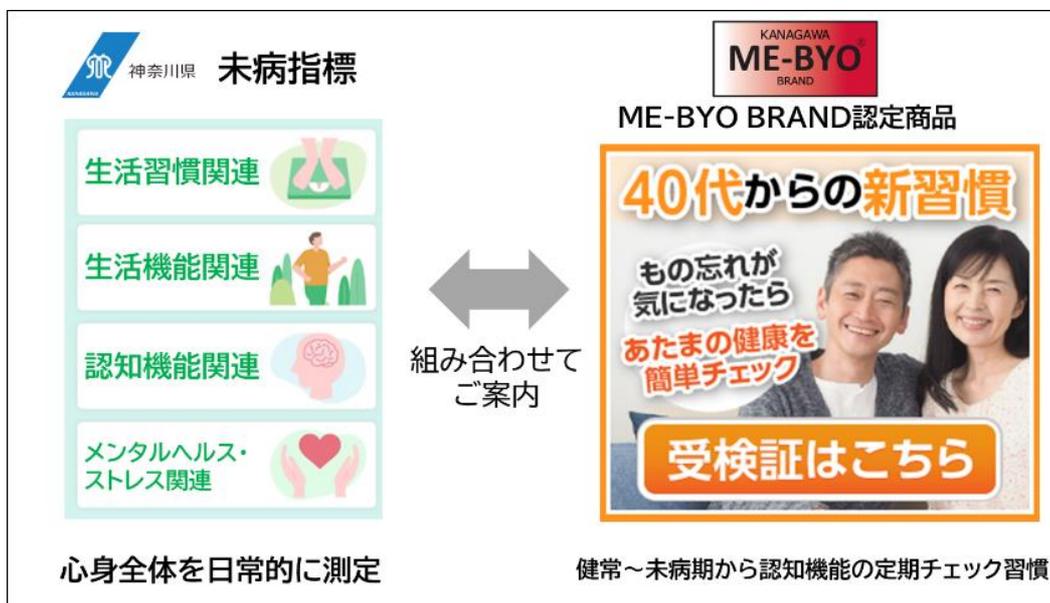
(1) 開始時期

令和8年2月から

(2) 主な取り組み内容

「あたまの健康チェック」を活用している、もしくは活用を検討している自治体、健診施設、その他団体等において、誰もが無料で簡易に測定できる未病指標を組み合わせた活動を、県と株式会社ミレニアとで連携して展開します。

日常での未病指標(生活習慣、生活機能、認知機能、メンタルヘルス・ストレス)の測定を通じて、フレイルや軽度認知障害の兆候が見られた方や、認知機能を詳細に測定したい方に対し、軽度認知障害の段階の見える化に強みを持つ「あたまの健康チェック」(有料)をご案内することで、早い段階から認知症やその備えに関する正しい情報に関心を持ち、国が普及をすすめる「新しい認知症観」に触れるきっかけを作り、食・運動・社会参加を中心とする認知症未病改善の取組を積極的に行っていただくことを目指します。



○株式会社ミレニアからのコメント

認知機能スケール「あたまの健康チェック®」は、全国の医療機関の健診施設において脳ドックの標準検査項目として広域に利用いただいています。都内では役所のもの忘れ検診事業において市民の広域スクリーニングから地域連携までを担っています。また、全日本トラック協会発刊の健康起因事故防止マニュアルにも掲載され、再雇用の進む資格職・特殊技能職域においても活用が広がりを見せています。

このたびの、未病指標との連携を通じて、当社サービスが従来カバーする対象人口の枠を超え、より広域に、一般生活者が自身の健康状態が未病へ進展し得る様を身近にとらえ、能動的に自助活動を通じ未病対策する環境整備が推進されることに期待しています。

○ 「あたまの健康チェック®」(株式会社ミレニア)

あたまの健康維持・増進や、軽度認知障害の予防・早期発見の意義を理解し、自身の認知機能に関心を持つきっかけとなることを目的とした認知機能チェック。従来の認知機能検査では評価が難しかった若年層(30歳～)やもの忘れの訴えない方の定期状態観察が可能な国内民間検査の最古参。あたまの健康状態を独自指標 MPI 値(0-100)を用いて提示。独自統計分析技術を用い、検者の職能を問わず10分間で安定した評価を実現。平成31年にME-BYO BRAND認定。AMED 研究事業「J-MINT Prime 神奈川研究」の追跡調査研究における評価項目に採用。平成28-令和3年 AMED 研究事業 IROOP の公式評価スケールに採用。都内自治体のもの忘れ検診事業受託例をはじめ、全国の自治体・健診施設における共通評価指標として広域に採用。

※1 未病指標

自分が健康と病気のグラデーションのどこにいるのか、生活習慣、生活機能、メンタルヘルス・ストレス、認知機能の4領域を3段階評価し、現在の体と心と脳の状態を数値等で見える化するので、スマートフォンなどで気軽に測定可能。認知機能測定は、単語の記憶と時計描画の検査を組み合わせたスクリーニング検査法である「Mini-Cog」を実装している。

※2 認知症未病改善プロジェクト

認知機能低下に伴う、身体機能低下、精神機能低下の悪循環を未病コンセプトに基づき改善するため、各種機能に関する早期の気付きと、維持・改善・補完などの介入を通じて、総合的に日常生活・社会生活でのQOLの維持・向上を目指す、神奈川県の産学公民連携の取組。

(別添資料) 〈株式会社ミレニア記者発表資料〉

《SDGsの推進について》

県では、SDGsの達成にもつながる取組として、県民の未病を「見える化」し、未病改善につなげる「未病指標」の普及及び「認知症未病改善」の取組を進めています。



問合せ先

神奈川県政策局いのち・未来戦略本部室
未病産業担当課長 湧川 電話 045-285-0047
未病連携グループ 佐藤 電話 045-285-0778